

理事会報告

十月二十八日(水)に浦和県連事務所にて第七回理事会を十四名出席で行いました。

委員会等活動経過報告・計画予定

【全国連盟活動】

十月三十一日～十一月一日 第九回全国救助隊交流集会・関東ブロック自然保護集会

十月一日 新メディア戦略首都圏・石川特別実証区第四回懇談会

議題

- 1 プレゼンテーション「労山新総合戦略改訂と新メディア戦略の役割」
- 2 ロードマップの討議と合意
- 3 動画データベースの実

験と意見交換
4 その他・ナマステ5号・ろつさんニュース特別実証区版発行について

【県連全体活動】

事故一報二件

【事務局】

十月十六日 三役会議
安全登山講演会、参加要請文について

山と渓谷社『山の便利帳』記載県連連絡先リストの追記

カレンダー注文集計残り9部
十月末現在の組織数調査
埼玉県連各会へ十月末までの組織調査書を配布。

所沢防衛医大の登山団体へ
労山加盟の詳細連絡済み。

【財政】

後期連盟費未納 三団体

【ホームページ】

掲載 ○九年全国自然保護担当者会議実施要綱
第八回全国救助隊交流集会実施のお知らせ
第二十一回全国海外登山集会のお知らせ

会のお知らせ
委員会リストに遭難防止・安全教育委員会を開設。ヒヤリハット報告書を添付。

【女性】
一月二十三日～二十四日 東日本女性集会(高尾)宿泊・単日とも盛況の為締め切り。

次回委員会「11月」の
三月第一週講習会 開催の
予定

【自然保護】
十月三十一日～十一月一日

関東ブロック自然保護担当者会議(山梨)「ヒト・動物・自然との共生を求めて」
「11/15」全国自然保護担当者会議

【救助隊】

10/26 埼玉県労働会館(北浦和)にて二月深雪合同訓練打合せ 土合山の家周辺1715岩場の搬出訓練

【登山学校】
(女ヶ岩・都幾川)
岩登り：10/3 机上 参加二十二名 10/4 実技：日和田山 参加二十三名

天気の見方：11/1 机上
11/8 実技：赤城・鈴ヶ岳

【岩ネット】 11/1 広沢寺(丹沢) 5名参加予定

【登山セミナー研究】
HPに募集実施要綱を掲載

【ブロック協議会報告】
西部：11/15 交流集会(丸山) 鍋交流

南部：10/25 古賀志山他交流バスハイク(28名参加)

中部：11/15 読山行
11/15 会議で詳細決定

議題

1、安全登山講演会

日程：十一月二十九日(日)
受付：十三時(開演十三時三十分) 会場：労働会館
講師：井芹全国連盟遭難対策部長

参加費：五百円(百二十名予定)
役割分担等の決定

2、遭難・防止安全教育担当者会議

日程：十一月二十九日(日)
受付：九時(開始九時三十分) 会場：労働会館

議題

*大雪山系トムラウシ・美瑛岳遭難事故について
*県連会員以外の遭難救助要請について

*ヒヤリハット事例報告
他：交通費補助は各会一名

3、県連会員以外の遭難救助要請について

警察・消防等の捜索終了後、捜索依頼があった場合の対応

4、その他

県連規約改正・三役互選
第二回評議会開催(労働会館・北浦和) 11/31 13:00

救助隊訓練報告

十月十八日(日)の澄み渡った蒼い空の妙義山塊で行われた埼玉労山救助隊の訓練。

入隊して六ヶ月、超初心者
の私は五月の岩登り訓練に
続く二回目の参加です。

気持ち昂ぶり、一睡も出
来なかった(嘘です) 眠い
目を擦りながら車で現地集
合場所に...

前夜からテントに泊り込み
深夜まで下準備や打ち合わ
せに余念のなかった先発組
みと合流。

徳重隊長以下十二名の精銳
が二班に分かれ、早速準備
に取り掛かる。

この日の為に大枚をはたい
て揃えた道具を身につける
と、どうやら格好だけはベ
テラン風になった。(皆、
ピカピカなので恥ずかし
い！)

徳重隊長から今日の課題で
ある「滑落した遭難者の捜
索、現場の状況に適したシ
ステムを判断する」など諸
注意を含めた訓示を受けた
後、隊列を組み行動開始。

AM九時、群馬の名瀑と言
われる「のよな気がする」
麻芋の滝を横目に見ながら
登山道を歩くこと十五分、
目的地に到着。すぐにセル
フビレーを装着して作業開
始。

立ち木を利用して五十Mほ
どロープを下げ、隊員が懸
垂下降で遭難者を捜索しな
がら所定の高度まで降り、
着いたところで、引き上げ
る。これを全員で交代しな
がら繰り返す。

カラビナ、プリー、スリ
ングなどの器具を使い、三
分の一という省力システム
を構築して引つ張るが、7
0kgもあるウン、さす
がに重い。一人の引き上げ
に約十五分。

狭い山道、邪魔な立ち木、
滑りやすい露岩や足場が悪
いなどの状況で、限られた
小道具を使用しての作業を、
場所を換え、道具を換えて、
繰り返しPM一時まで。あ
れ疲れた...これは体力勝
負だ。

遅い昼食を済ませ、暫し休
憩の後「帰りの交通事情を
考慮して今日の訓練はコレ
マデ」という隊長の温かい
配慮に、思わずホッとして
道具を急ぎ整え、集合場所
まで下山を開始する。

帰り支度をしながら考えた
のは、今までの山岳遭難の
救助に携わった方々の苦労
は大変なことであったと。
また、慣れない道具の扱い、
動作が鈍く足手まといにな
るかな?と心配しながらの
参加でしたが、先輩諸氏の
指導を頂きながら学んでい
けば、少しはお役に立てる
かな...なんて。

山岳遭難の多発する昨今、
事故が減ること、無くなる
ことを願いつつ、「今日の
訓練内容を各自がシッカリ
と整理し、今後の活動に生
かすよう!」との隊長の言
葉を深く胸に刻み込み、充
足感に満ちた気持ちで帰路
についた私でした。

H・C上里 小田満義 記

埼玉労山

埼玉県勤労者山岳連盟機関紙 発行:武笠真次
〒336-0011さいたま市浦和区高砂4-1-5ふじビル2階 編集:青木 正
<http://www.justmystage.com/home/tozans/index.html>
<http://www.justmystage.com/home/tozan/>

全国ハイキング交流集会

ハイジAPC 赤丸正男

九月十二日(土)〜十三日(日)北八ヶ岳・唐沢鉱泉にて開催された交流集会に参加して来ました。

報告の前に登山とハイキングの私なりの定義としてハイキングとは道がある野山を歩くこと。三千メートルクラスの槍・穂高でも道があるのでハイキングです。道が無いところに行く岩登りや沢登りは登山と想っています。そう理解して以下をお読み下さい。

体験報告の第一は大坂府連組織部の浜田光国さんの「ハイキングセミナーの取り組み」(十六年間の経過報告)です。

浜田さんは、十七年前に組織部担当の常任理事を引き受けています。最初は継続で初歩セミナーに取り組んでいましたが、翌年から登山者の為の講習会からハイカーの為の講習会に変えています(一九九四年)。一般者対象であったが以前から思っていた若年層の組織拡大も考えながら取り組んでいきました。その心は、「山来ている若い人を見て、山の素晴らしさ、アルプスの素晴らしさを伝えてあげ

たい」という気持ちが強かった(今でも)からハイキングセミナーを手探りで考えながら十六年間やってきています。この間セミナーのキャッチフレーズである

「山歩きの素晴らしさ、仲間との心のふれあいの素晴らしさ、そして生の大切さ」を組織に所属していない自然愛好家(ハイカー)に伝えたい気持ちを持ち続けておられます。

成果は以下のごとくです。夏山セミナーの受講料は初期七千円、現在は一万六千円。受講者数の平均は三十三名、その内三十九歳以下は二十名です。受講生全体の平均年齢は三十八歳です。セミナー終了後、連盟加入者数及び加盟率二十三名七十七%という高率です。冬山セミナーもやっており、受講者は一般参加二十一名、全体で二十五名です。一般者の内三十九歳以下は十四名です。修了後の加盟者数・率は十八名八十三%のこれも高い。

これ高い。セミナー開催および連盟加盟の成功要因は若者に照準を合わせたHP作り・暗い感じの登山事務所を避けて公の明るい会合場所の幹旋・等等、今の若者の気風

に合わせた募集・セミナー参加者中心で山の会創立の手助けなどがそれだと思えます。

第二報告は、九州は福岡県の毎年行われている「体力測定登山」と「基礎体力測定」でした。この取り組みはもう十年になります。前者は登山前後の尿検査と登山中連続心拍数・血圧測定を実施するものです。平均参加者数は四十五名です。後者はどこでも行われる上

体起こしから目新しいところでは「最大酸素摂取量」と「開眼上向き片足立ち」これは試行中で登山中「よそ見」をしたらバランスを崩し易いかをみるものです。

第三報告は遭対部長井芹氏でした。「特別基金(寄付型保険)の加入」についても紹介され、私もすぐに加入しようと思えます。

第四報告は、今回の交流集会で私が最もインパクトを受けた北海道トムラウシのアミューズトラベルのツアー登山事故と同じ日、同じコースを歩いた伊豆HCの報告でした。

北の山を目指した。七月十三日三島を出発し羽田、旭川を經由層雲峡温泉に入る。

十四日(好天気)黒岳小屋に入る。管理人から十五・十六日は天気が悪いという情報を貰った(このとき天気図を作る時間があったが其れをしなかったことも問題の一つにあげられた。十五日黒岳小屋を出発。ひさこ小屋着(二階へ)アミューズGも相前後して小屋に入る。このグループはガイド四人。客十五人。(一階を使う、場所取りのガイドがいたと云う)。

十六日。出発予定日。出発4時半予定を天候様子見で小屋に滞留。この間にツアーIGは出発。(小屋は静かになつた)このとき伊豆HCにはツアーIGに負けたくないという気持ちが有つたという。さらにSLは百名山踏破志向が強い人であった。また十六日は国民宿舎の予約もしており、十九日には、フライトの予約も入っていた。LとSLとの間に軋轢が有つた。こうした条件にLは停滞を続ける考えだったが参加者の前進気配に押し切られて出発を決意した。(このLの判断は反

省会で批判された)。こうして伊豆HCも出発。すぐにツアーIGに追いついた。このツアーIGの足の遅さをみて伊豆HCも不安を感じたと云う。そのうち伊豆HCの中から変調者が三人出た(伊豆HCは7・8人の人数だった)。一人は低体温症になつており危険であつた。着替えさせ、ダウンを与え、温かい飲み物を与え、荷物もメンバーが手分けして持ち、なんとか下山に成功した。以上が報告の内容でした。すべて口頭のみによる報告でこの記は私の聞き書きです。SLは反省会後退会していったそうです。

分科会後の全体会議ではもうひとつのテーマ「安全登山」の報告があり内容は、教育の標準化が今後の課題で、

分科会後の全体会議ではもうひとつのテーマ「安全登山」の報告があり内容は、教育の標準化が今後の課題で、

分科会後の全体会議ではもうひとつのテーマ「安全登山」の報告があり内容は、教育の標準化が今後の課題で、

分科会後の全体会議ではもうひとつのテーマ「安全登山」の報告があり内容は、教育の標準化が今後の課題で、

分科会後の全体会議ではもうひとつのテーマ「安全登山」の報告があり内容は、教育の標準化が今後の課題で、

分科会後の全体会議ではもうひとつのテーマ「安全登山」の報告があり内容は、教育の標準化が今後の課題で、

分科会後の全体会議ではもうひとつのテーマ「安全登山」の報告があり内容は、教育の標準化が今後の課題で、

分科会後の全体会議ではもうひとつのテーマ「安全登山」の報告があり内容は、教育の標準化が今後の課題で、



労山五十周年

**インドヒマラヤ
シス 谷女性登山隊**

感動の三つの出会い

新座山の会 久保典子
インドヒマラヤ・トレッキングで感動の三つの出会いがありました。

一つ目は、運動生理学との出会い。高山病も、科学に基づいた事前準備をすれば克服でき、おかげで、今回高山病知らずで過ごせました。

二つ目は、雄大な自然と花に出会い、未知の高度世界を体験。そして、ブルーポピーに感動。

三つ目は、素晴らしい仲間との出会いです。計画・

準備・実施と、丸ごと考え、作り上げていく醍醐味を感じ、隊全員で成功した時の喜びは大きいことも学ぶ。「行ってみたいな」という夢と憧れを、知恵と力を出し合い、手の届くところまで引き下げ、実現させてしまおうという、労山女性委員会の組織力の素晴らしさを、改めて感じました。

所沢ハイキングクラブ
森田志津江

インドヒマラヤ山行というものを知り、昨年の十二月の説明会に行き、ただ、行きたい!という気持ちだけで何も考えず?申し込みをしました。

高所訓練のため二度の富士登山はしたものの、労山事務所での数回の講習会(高山病の予防、高所での行動の仕方、高山病になったら・等に)に参加すればするほど、日頃のトレーニング不足、そして高山病、海外の山に対する知識の無さの自覚、そして出発の二日前に風邪を引き発熱、大丈夫なのだろうかと緊張と不安だらけの出発でした。そんな私ですが、ロータールーポピーや名も知らぬた

くさんの花々、氷河を抱く遠くの山を見ながら、シスー村に移動、そしてシスー谷沿いにギャバン・ゴーを指して本当にゆっくりゆっくり歩みを進める。山肌は草原状をなし、イブキジヤコウソウのピンクが鮮やかに、またトウチソウの間が一面に咲き風に揺れ、そして青い空に癒された登山でした。

女性ばかり十一人の賑やかで楽しく充実した非常の日々だったので、高山病にもならず、心配した風邪も大事にならなかつたのかなあと思います。

他の方の日々の訓練、山行&山岳会の様子、世界の山を数多く経験している話等を聞き、初心者の私は皆さんからエネルギーをもらい、これから頑張ろう!とスタートラインに立った気持ちになりました。次回は準備万端、自信を持って臨みたいと思いました。



贅沢な山旅

わらび山の会 岩崎 さつき

昨年TV「世界不思議発見」で見たブルーポピーと森田さんの山荘に憧れ、軽率に申し込んだインドヒマラヤ・トレッキング。不安は後から湧いてきました。テント泊は会での雪上体験の一泊しか知らず、高所トレーニングとかで富士山に二回は登らなければならぬとか、気がつけばカレーは好きではないし...

ところが三七〇〇mのテント場は日本の小屋泊り以上に快適!? ユッタリ一人のツイン部屋、食堂テントでは日本人の口にあうよう工夫された、デザートつきのお食事。トイレブースにはペーパーまで備えつけら

れておりました。心配していた高山病も、サブリーダーの超ユックリペースの歩行のおかげで難なきをえました。また、メンバーの一人が「ストレッチ教室」を開いて下さり、筋肉痛もでませんでした。そしてなにより贅沢なことは、我々とスタッフと馬だけで静かな山々を借り切ってしまった事でした!

ヒマラヤンブルー空の下、ギャバンゴーやマカルベ・シカルベの勇姿、氷河の白緑の草原に点在する馬と人月並みですが風景が目に焼き付いています。

天気と人々に恵まれ重なる山旅でした。「次回」があれば、四五〇〇mの峠を越え氷河歩きもしてみたい。どうぞリゾート地になりませんように。



救助隊訓練予定

訓練参加対象は救助隊員です。(詳細、入隊等は埼玉労山救助隊事務局まで)

11/15 岩場の搬出訓練(女ヶ岩-都幾川)
2010年 2月 20日(土)・21日(日)関東ブロック救助隊深雪搬出訓練
場所:群馬県 谷川岳 土合周辺
参加費:7,500円(土合山の家・一泊二食付,交流会費を含む)
21日のみの参加は500円(申込締め切り11月末日)

埼玉県連からのお知らせ

2010年労山カレンダー残9部(お早めに)
東日本女性集会(高尾)募集人員満員になりました
安全講演会申し込みは11月21日までにお願いします
埼玉県連第2回評議会日時が変更になりました
2010年1月31日(日)埼玉県労働会館(北浦和)
受付 13:00(開会 13:30) 担当者は出席をお願いします
[欠席の場合は委任状提出をお願いします]



登山学校 第5回岩登り

岩登り講習を受けて

さいたま市 坂元律子

机上では、基礎的な岩登りの知識と、いくつかの道具を使い自分を確保する方法を学びました。

スリング、カラビナを簡易ハーネスとして装着し、ロープを利用して自分を確保する練習をし、また、ハーネスを履いたときのロープの結び方も教えていただきました。

時間に限りもあり、たくさんある技術のうちの初歩にあたる部分だと思えますが、全く知識のない私にとっては何からウロコなことばかりでした。

ここで何度も練習できたので実技の際に戸惑わずに済みましたので、やはり事前学習は大切だと思いました。実技(日和田山)は、机上で学んだことの復習と実践でした。

運営委員の方々がしっかり見てくれていましたが、油

断するとケガをしてしまうのは自分なので、多少緊張感を持って体験できたと思います。

トップロープで男岩、女岩と両方挑戦し、思っていた以上に難しいと感じました。特に男岩に登る際、基本姿勢・体重移動の仕方などを教わったはずが、実際に登

つてみると、次に手や足をかけるところを見つけれられず、蟬のように岩に貼りついたまま動けなくなり途方にくれていました。

登るだけでこんなに難しいのに、上の状況を考慮しながらロープを操る確保側はもっと大変ではないだろうか?とも感じました。

途中二度ほど岩から離れてしまいつつも、何とか上まで登れましたが、達成感よりも途中で手を離してしまつたことが悔しかったのでまた挑戦したいです。

スノーボードでバックカントリーに行きたくて、しっかりととした山の知識を身につけるべく登山学校に入校した為、本格的に登山を始めたのは今年からです。岩登りは初めての体験でした。

山に登っていると岩登りに近い状況に遭遇することもあり、今回実際に勉強をさ

せていただき、とても充実した良い経験ができました。楽しみながら学べる場所があるというのは非常に有難いことで、講師・運営委員の方々に御礼申し上げます。

共に、今後も引き続き事故のないように楽しみながらもつと様々なことを学んでいけたらと思っております。

わらび山の会 近藤健一
十三期に引き続きの参加です。昨年も、岩登りで投稿いたしました。昨年との違いは受講者の人数が多く、倍ぐらいいましたが、嬉しい事とは思いますが、運営委員の方の苦労も倍増したと思えました。

昨年は、ボルダーで説明を聞き受講者の五人が実技体験をしました。そして、女岩での簡易ハーネスを装着して、全員がロープスリングを使い実技体験をしました。そして、男岩の正面に三本のロープがセッティングされ、ハーネスを装着して、代わる代わる実技訓練をしました。

また、後から西面にも一本(難度がある)が張られ挑戦しました。私自身、昨年は気合いも入っていたのか、機会にも恵まれた事もあり、女岩2本、男岩3本

のロープに各二回、西面一回、計九回実技訓練が出来ましたが今年にはゲレンデの混雑や受講者の人数も多く、ボルダーでの説明・実技体験も出来ませんでした。男岩・女岩での流れはイマイチでした。しかしその中で貴重な体験をさせて頂きました。男岩・女岩、各一本でしたが、昨年はがむしやら(無我夢中)に登りました。心身ともに余裕がありませんでした。今年は数が少なくても、ロープワーク・足の運びなど周りを見るゆとりは出来ました。情熱に欠ける面ができました。『何故だろう?』と考えてみました。ゲレンデの混雑、受講者の多さも流れに乗りきれなかった事もありましたが、一番の欠如は岩に対する取り組む姿勢が後ろ向きであると云うことだと思えました。今後この姿勢や気持ちはどう変化するか分かりますが、前向きな方向に転嫁したいと思っています。一方年齢等を考えると技術的進歩もさほど望めないし、楽しくあればいいやとも考えます。今回は登る数は少なかったけど皆と楽しく過ごせたことに満足しています。男岩で、

テンションをかけて下りる時にお尻を二回ついでしてしまいました。足の運びが遅い事が原因でしょうか、ロープを確保してくださる人とのタイミングの関係もありませんか?とも思いました。軽部講師みたいに軽やかに下りたいとも夢みます。今後ともよろしく願います。

編集後記
文化の日に高尾山稜に行ってきた。前日の雪の為に、だいぶ冷え込んでいて紅葉も始まっていました。山中の味噌汁が楽しい季節になりましたね!
今冬は雪が多いかな?
153号は原稿締め切り十一月二十七日、印刷・発送十一月七日です。(ノオ)

安全登山講演会

主催 埼玉県勤労者山岳連盟

テーマ 「労山の過去の事故から」
「大雪山系遭難事故を考える」
「これからの安全登山をめざして」

講師 井芹 昌二氏 (全国連盟遭難対策部部長 埼玉県連救助隊顧問)

日時 11月29日(日)

受付 13:00 開演 13:30~15:30 (質疑応答含め 16:00 終了予定)

会場 埼玉県労働会館 (JR北浦和駅 徒歩3分)

定員 120名 (定員になり次第締め切り)

受講料 ¥500 (当日、会で人数分お支払いください)

申込・問合せ先 埼玉勤労者山岳連盟事務局長 木阪康弘 ☎/FAX0480-33-7895

✉ kisaka-k.7@tbb.t-com.ne.jp 会単位で FAX 又はメールで申し込み下さい。

第2次募集締め切り 11月21日(土) [できるだけこの期日に集約をお願いします]

午前中は同会場で遭難防止・安全対策担当者会議が開催されます。担当の方は御出席をお願いします。(尚、交通費補助は各会一名です。御了承下さい。)